



平成 19 年 8 月 21 日

各 位

会社名 日本精蠟株式会社
代表者 取締役社長 吉田泰邦
(コード番号 5010 東証第 2 部)
問合せ先 常務取締役 井上 寛
(TEL 03-3523-3530)

平成 19 年 12 月期 中間決算短信 (非連結) の一部訂正について

平成 19 年 8 月 20 日付けにて開示いたしました『平成 19 年 12 月期 中間決算短信 (非連結)』の 4 ページ 5. 当中間期の営業概況に一部誤りがありましたので下記の通りお知らせいたします。

1. 訂正箇所

訂正箇所に_____を付して記載しております。

5. 当中間期の営業概況

ワックスの国内販売では、前年同期に比較して売上数量では主としてろうそく用途向け販売減が影響して 853t 減の 17,484t、売上高では売上数量減にも拘らず前期実施の値上げが寄与し 185 百万円増収の 3,920 百万円の実績となりました。また、輸出販売では、新規販路の開拓と開発製品の拡販により前年同期に比較して売上数量では 1,012t 増の 26,902t、売上高では 395 百万円増収の 3,655 百万円となりました。この結果、ワックス全体では前年同期に比較して売上数量では 159 t 増の 44,387t、売上高では 581 百万円増収の 7,575 百万円の実績となりました。

一方、重油販売では暖冬の影響で前半の 1～3 月が低調であった市況は 4 月以降は再び騰勢を強めた原油相場や猛暑・渇水観測等の影響により一転タイト化してきました。その結果、前年同期に比較して売上数量では 2,387kl 減の 221,897kl、売上高では 582 百万円減の 10,683 百万円の実績となりました。

また、諸商品の販売は前年同期に比較して売上高は 14 百万円増の 43 百万円となりました。これにより、売上高合計では前年同期に比較してほぼ横這いの 13 百万円増収の 18,302 百万円となりました。また、収益面では主として重油市況の堅調が好業績を齎し、営業利益では 678 百万円増の 1,741 百万円、経常利益では 605 百万円増の 1,555 百万円、中間純利益では 31 百万円増の 917 百万円の実績となりました。

5. 当中間期の営業概況

ワックスの国内販売では、前年同期に比較して売上数量では主としてろうそく用途向け販売減が影響して 853t 減の 17,484t、売上高では売上数量減にも拘らず前期実施の値上げが寄与し 185 百万円増収の 3,920 百万円の実績となりました。また、輸出販売では、新規販路の開拓と開発製品の拡販により前年同期に比較して売上数量では 1,012t 増の 26,902t、売上高では 395 百万円増収の 3,655 百万円となりました。この結果、ワックス全体では前年同期に比較して売上数量では 159 t 増の 44,387t、売上高では 581 百万円増収の 7,575 百万円の実績となりました。

一方、重油販売では暖冬の影響で前半の 1～3 月が低調であった市況は 4 月以降は再び騰勢を強めた原油相場や猛暑・渇水観測等の影響により一転タイト化してきました。その結果、前年同期に比較して売上数量では 2,387kl 減の 221,897kl、売上高では 582 百万円減の 10,683 百万円の実績となりました。

また、諸商品の販売は前年同期に比較して売上高は 14 百万円増の 43 百万円となりました。これにより、売上高合計では前年同期に比較してほぼ横這いの 13 百万円増収の 18,302 百万円となりました。また、収益面では主として重油市況の堅調が好業績を齎し、営業利益では 678 百万円増の 1,741 百万円、経常利益では 605 百万円増の 1,555 百万円、中間純利益では 531 百万円増の 917 百万円の実績となりました。

以上